



温胆湯 (うんたんとう)

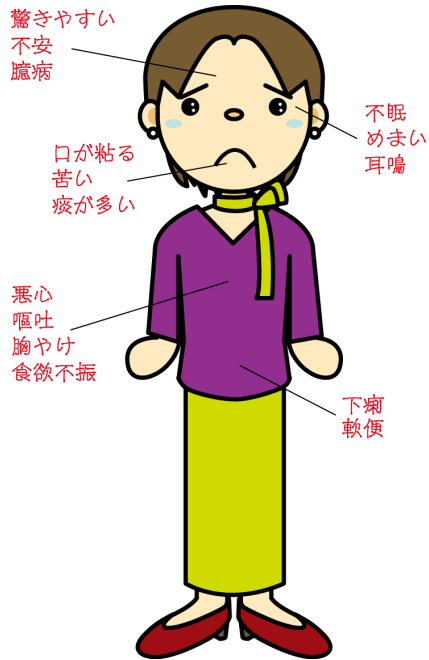
【処方コンセプト】 あれこれと思い悩む取り越し苦労に。

このタイプの方は、不眠・驚きやすい・憂うつ・不安などの精神的症状のほか、胸やけ・食欲不振などの消化器症状も呈する。

◆痰とは咳嗽時に喀出する痰を指すが、これは狭義の痰。広義の痰は、身体に流れる水が停滞して熱をもち凝集化した結果、粘性化したものを指す。

◆熱と結びついた痰熱は、体内の気血水の循環を滞らせて、不眠・頭痛・めまい・胸やけ・食欲不振を引き起こす。

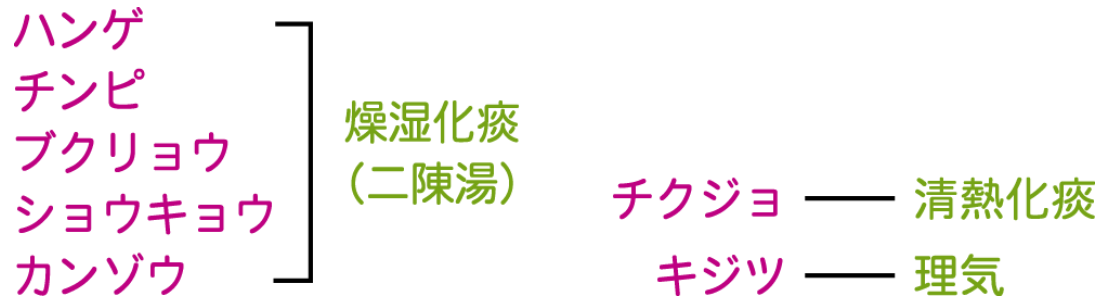
◆温胆湯は痰熱を除き、痰熱が引き起こす精神症状や消化器症状を改善する。さらに、胆を強めて胆力（決断力）をつける。



◆「胆（た）が据わる」という言葉があるくらいで、胆は決断力を主る腑である。胆の機能が虚すると物事にビクビクして、不安を感じるようになる。日常生活の中で一番決断力を有するのは、就寝する時という。よって、胆が虚することは不眠につながる。

【処方構成】 7味

燥湿化痰（ソツカク）：痰と余分な水分を除く）の二陳湯に清熱化痰（セイネカク）：痰を除き熱を冷ます）の竹茹（チクジョ）と理気の枳実（キジツ）を配合したもの。また、見方を変えると、溜飲（食後ゲップや胸やけが多くて、みぞおち辺りが常に気持ち悪い）に用いられる茯苓飲から 補気の人参（ニンジン）・白朮（ビャクジュツ）を去って半夏（ハンゲ）・甘草（カンゾウ）・竹茹（チクジョ）を加えたとも考えられる。このことから気や水の滞りを除き、痰熱を処理することが分かる。



	解表			清熱				補気				理気			安神		利水		活血		配合生薬数			
	桂皮	生姜	防風	柴胡	菊花	大黄	黄芩	石膏	竹茹	釣藤鈎	人参	甘草	大棗	麦門冬	陳皮	枳実	半夏	竜骨	牡蛎	茯苓		白朮	当帰	川芎
温胆湯		○						○			○				○	○	○			○				7
柴胡加竜骨牡蛎湯	○	○		○		○	○			○		○				○	○	○	○					11
抑肝散加陳皮半夏				○					○		○				○	○				○	○	○	○	9
釣藤散		○	○				○		○	○	○		○	○	○					○				11

処方名	類方鑑別
温胆湯	不安で物事が決断できず、不眠が生じる。精神症状が消化器の不調を引き起こしている。
柴胡加竜骨牡蛎湯	イライラ、不安感、動悸があり不眠となる。神経過敏の症状。
抑肝散加陳皮半夏	痞が高ぶってイライラしているために興奮が収まらない上、血液循環不足があり、眠りにつけない。
釣藤散	イライラを原因とする震えや痙攣を抑える。高血圧で頭痛やめまいがある方に。